

令和3年度第3回菊川市男女共同参画推進懇話会及び菊川市男女共同参画推進プラン策定委員会の議事録

(1) 第4次菊川市男女共同参画プラン案について・・・資料1を事務局が説明

【委員】今日の言葉の中にもありますが、「ジェンダーの平等」という言葉があります。男女共同参画が始まりまして、「ジェンダーフリー」という言葉が一時よく使われていました。しかし、これには誤解が多く、「学校で着替えも男女で同じでやる」という間違っただけの認識で取られたものですから、今はほぼ使わなくなりました。「ジェンダーの平等」という言葉の場合、一言でどういうことですかって説明できますでしょうか。事務局でもよいですし、委員の皆さんでもよいです。ジェンダーの平等、ジェンダーが前にきて、いろいろつながっていくのですが、その言葉を市民がどのくらい使うか。事務局の方からお答えをいただければと思います。

【事務局】ここでの適切な答えを一言で説明するということ、何が適切なのかと思っているところです。この言葉自体は、SDGsの中に入っている言葉なので、そこに記載されている説明を今確認しています。

【委員】国連で採択されたSDGsの中に翻訳してはありますが、言葉として掲載していますが、これがどういったことを表すということか一般市民がわかるでしょうか。「ジェンダー」という言葉の意味は社会的性差を意味して、ここでは、性的な性差を平等にしようではなくて、「ジェンダーの平等」という言葉を使っています。これはわかりにくいじゃないですかね。この冊子の挨拶やその後のいろいろ箇所でジェンダーという表現が出てきますが、これわかりにくいなというイメージがあります。どう表現するのかな。私らも、答えなさいと言ったときにちょっと考えないといけません。

【事務局】SDGsの解説を見ると「世界中の女性と少女が力をつけ、ジェンダー平等を実現する」というような形で表現されています。

【委員】「注釈が必要な言葉だ」や「理解されない」と思ったら、注釈をつけた方がよい。注釈を入れて、「そういうことなんだ」とわかる場合は、やはりつけておくことが必要です。大学の先生などは、難しい言葉を当然として使っています。しかし、一般市民には、いろいろな方がおられますので、伝わらないならこのようなものをつくっても意味ないので、「菊川はまだこのような言葉に説明文載せなきゃいけないのか」というふうに言われるかもしれないけど、それをやってください。

【事務局】明確な説明ができないようであれば表現をかえますし、注釈でわかりやすいようにすることができれば、そのように変えていくことを検討していきます。

【委員】県との行政との整合性も含めて、今作っていますので、県の方でもこの言葉が出てきているので、菊川市も注釈付けますというように、堂々やったほうがよい。

【委員】最終案ということで見たとときに、男女共同参画社会を実現するために、様々な事業に取り組んでいるとわかるものなのですが、市民が「男女共同参画」

という言葉がわかるかなと思います。私も男女共同参画の委員をやって7、8年たちますが、やっとわかったような言葉です。この「男女共同参画」の言葉の意味が分からなくて、「男女共同参画は何かわかる？」と聞かれて、説明しました。私がどのようなものか説明すればわかるけど、「この言葉だけいわれてもわかんないよ」となりました。そのような方が多い中、この計画を見て、手に取っていただかないといけないときに、男女共同参画が何か、表紙に表せたら手に取ってもらえると思いました。男女共同参画について、冊子の中には書いてありますが、冊子を手に取らないといけません。「男女平等」という言葉に少し拒否反応を起こす方に理解してもらうことや、言葉は悪いですが、「女性をでしゃばるような世の中にしろって言っているわけじゃないんだ」ということをわかっていたかのようなことを何か表紙の方に表せたら見てもらえるかなと思いました。

【事務局】これは冊子もそうですけど、後ほど、案として事務局ベースで作って、どんな形にするか、皆さんの御意見をお聞きしようかなと思っています。「男女共同参画」について、私たちもずっと仕事の中で使っていますけれど、そこを端的に、こういうことだよという言葉が入るようであってもよいと思います。また、表紙や裏表紙など、わかるように検討したいと思います。

【委員】新しく追加した「社会情勢の変化」という項目について、今なら新型コロナウイルスについて多くの話題がありますので良いかもしれませんが、これから落ち着くとあまり「新型コロナウイルス」という言葉が重要でなくなってくるのではないかなというような気がしました。

【事務局】おっしゃることはわかります。希望としたら第4次プランの期間中にコロナを忘れるような状況になっていけばよいと思います。しかし、プランをつくる過程として、今コロナ禍で、男女共同参画関連でも、新たな課題が発生や時代の変化、オンライン化の推進などが出来事としてあり、そのような状況の中、今年度の3月末に策定します。今の状況では、こういう項目も入れていきたいと思っています。内容などもう少し細かい部分は変わるかと思いますが、こういった項目に関しては入れていきたいなというふうに思っています。

【委員】これを見まして、私としては、昔よりもいろんなことも改善されているので、すごく見やすくなっていると思います。自分にとっては分かりやすいと思います。

【委員】今も御意見あったのですが、小学生でもわかるような言葉を使うのがよいかなと少し思いました。

【事務局】音がちょっと聞き取りにくいところがあったのですが、表現とかで、わかりやすい表現使い、小学生とかでもわかるような言葉を使うということですね。先ほども委員が言われたところのように、この中で表現がわかりにくいところには、注釈を入れることや、わかりやすい言葉に変えていくなど、一通り見直して検討していきたいと思っています。今皆さんに送らせていただいたあと、見直して、漢字や表現が統一しているか、同じ言葉なのに違う言い方をしているところがないかなど確認し、適宜修正させていただいています。また、同じ意味合いで表現をわかりやすく変えたり、注釈を入れたり、このあと事務局の方で随時対応させていただきたいと思いますので、ご了承いただければと思います。

【委員】先に読んで、いくつかあるのですが、今回新しく入れた、「社会情勢の変化」のところは、コロナという言葉に問題なかったかという指摘が先ほどあったところですが、このような内容を入れたことは、時代に合わせていて大変よいと思いました。コロナという言葉抜いて、「感染症の拡大」のみにしてもよいかもしれませんが、今回皆さんが経験しているから、このような言葉でもわかると思います。そのような形で「感染症の拡大による自粛など行動制限により、全国的に在宅勤務やテレワークが急速に普及し、働き方がより多様化しています。」としてもよいかなと思います。社会情勢の変化を入れたということがとても画期的でよいことだと思いました。

次に、42 ページに再掲で掲載している I D90 の女性の防災リーダーの事業についてです。やはり避難所で、男性だけがリーダー、女性だけがリーダーというのは偏っていると思います。今回本の紹介を机上へ置かせていただきましたが、やはり女性と男性では避難所で違うことが多々あります。例えば、女性にとって段ボールの仕切りが一つあるだけでも全然違います。非常に大事なことなので、これも掲載いただいているので、とても良いと思いました。

重なってしましますが、先ほどの委員がいった「ジェンダー」という言葉や別の委員がいった「男女共同参画」という言葉の関係で、私も外国人や障害者と関わった際に「やさしい日本語」というのがすごく大事だと思いました。やはりいきなり言っても、例えば、消費者の関係で「エシカル」や「SDGs」などもありますけれど、いきなりこの言葉を言っても、「さっぱりわかりません」や「日本語でしょうか」という感じになってしまいました。やはり、わかりやすいことは大事だと思います。先ほど御指摘があったように、私も学校で教えていて、こんな風にわからないことを教えていたと反省したのですが、ジェンダーとは、社会的、文化的に作られる性別で、生物的なものとは違いますと言っています。また、性別的役割分担で「女はこうあるべき、男はこうあるべき」という考え方の固定概念をなくしていこうという意味ですと言っているのですが、それ自体とても難しいことを言っていたと感じます。今の中でも、社会的文化的に作られる性別ということもそうですが、それを説明するための固定概念や固定観念などもやはり難しいと思うので、やさしい言葉に置き換えなければいけないのかなと思いました。「男女共同参画」や「ワーク・ライフ・バランス」、「多文化共生」についても、やはりわからない人がいると思うので、それをわかりやすく表現するかというのは、非常に大事なことで、それをやっている菊川市はすごいと言われたら、それもそれで特長があってよいと思うので、やっていただければありがたいです。

【事務局】「やさしい日本語」や他でも御意見いただいたようなわかりやすい表現は大事かなと思いますので、もう一度、そのような表現がないところを、他の部署に協力いただきながら、見直していきたいと思っています。お気づきの点があれば、「ここはわかんないんじゃない」というのがあれば、その後、御意見シートでも結構ですので、御提出いただき、そこ改善することもしなければなというふうに思っています。

【委員】10 ページのプランの体系について、初回にも説明があり、この体系表は、全体を表しているということですが、わかりやすいようでわからないなと思

います。初回に説明してもらって、「教育」や「支援」が基盤にあり、必要なことということはおわかりなのですが、そのときに、「わかるようでわからない」と思ったことを思い出したので伝えます。

【事務局】これを説明するときに、この体系図と、口頭説明をセットでなんとなく理解できたということですね。この体系図だけではなく、口頭説明したポイントをこの体系図に追加し、この体系図を説明できる検討します。会議のときにはこの図を見せながら、言葉で説明していますので、このあたりの言葉を追加するよう検討していきます。

【委員】絵とかの方がわかりやすいとか感じることはありますか。

【委員】「主体がどこなのか」、もちろん家庭と地域と職場だと思えますが、「体系図の点線って何だろう」や、「首長、委員の矢印の男性が両サイドにひろがっている意味なんだろう」というのは最初に思いました。

【委員】このあたりが市民にとってわかりやすく、私達が説明聞いてもなんとなくわかりにくいと思うところは、市民にとったらもっとわかりにくいと思います。こんな見たくないっていうならないような、そう受け取る方が1人でも減ればよいと思います。検討をよろしくお願いします。

【アドバイザー】いくつかここまでで気がついたことを、お話をさせてください。プランの体系のところなのですが、最初は少しわからなかったのですが、通常、施策の内容になると上から順に1、2、3と積み上げます。この点において、整合性がないかなと思います。1がベースにあって積みあがっていくというイメージと説明があり、わからなくはないのですが、通常、目は上から下へいきます。わかりづらいという理由の一つではないかなと思いました。

これを言ってしまうとあれですけど、これは市民がみんな読むものでしょうか。私は市外の者ですけど、私の住んでいるまちの男女共同参画プランを全部読むかという微妙だなと思います。興味があってもそうなので、このプランを市の中でいろいろ進めていくベースと考えると、そういう方々がわかればよいかなという気もします。子供も大人も全員がわからないといけないとなってしまうと、なかなかこの表現が難しくなってくると思います。もちろん小学生や中学生の教育に関する施策を取り出して、わかりやすく説明するような別の冊子やカテゴリごとに分かりやすくした冊子を作るとしたら、そこで表現に気をつけていけばいき、ある程度かわる方々からわかるようになっていけばよいかなというイメージを持っています。市民全員がこれを読んで大変深く理解するところは、目指さなくてよいという言い方はおかしいですけども、それは理想的で、現実的には難しいのかなという感じですね。わかりやすさというところは、私もそのような仕事をしてきたので、ずっと追求してきたのですが、非常に難しいと感じています。逆にわかりづらいことをみんなで議論していくというようにとらえ直すとういと思います。わかりづらいこそ、まさに多様性で皆さんがジェンダー平等ってわかるわからないみたいなところを議論していくということが大事なことになるかなと思います。全てがわかりやすく書くなど、そこまでこだわる必要はないかなという一つ漠然とした意見です。どこかそれはしょうがないかなと思います。男女共同参画という言葉も確かにうまい説明がないかもしれないけれども、努力はするけどわからないならわからないなりに、それぞれがイメージしている男女共同参画って何だろうと話を増やしていくきっかけになっ

ているというのかなと思います。

4 ページの社会情勢の変化から入っても素晴らしいと思います。私は、大事なものは、これによって働き方が多様化しているということで、それがやはり、女性が働きやすくなっているという声をたくさん聞きますので、働き方が変わることで女性への参画が進むということは大きな、大きな変化だと思います。ここが入ったことはとても素晴らしいことですね。文言がよい、悪いは別として、よいことだなと感じました。

【事務局】まず「体系図」において、基本施策の順番が、1 が下になっている件ですが、私たちも最初にプランを作り始めたときには、今基本施策の4 になっている女性分野における女性の参画拡大を1 にして、2、3、4 という形で作り始めました。この図の一番下に基盤の整備という一番基礎的な取り組みを置き、さらに、行政の支援や救済という二番目の「誰もが安心できる暮らしの実現」という基盤があって初めて、「誰もが活躍できる家庭・職場・地域が実現する」。それがあって、女性が参画拡大する、逆に女性の活躍を推進していくためのものが下にあるという考えのもと、この女性の活躍から書き始めました。しかし、行政としての取り組みとして、最初に、やはり意識啓発や幼少期からの意識啓発などの取り組みから書いていた方が、この冊子、このプランの説明としては、わかりがよいと思いました。このプランの最後の方には、「あらゆる分野における女性の参画拡大」に関する事業は、再掲とさせていただいているところが多いです。こちらを先に掲載する形にすると、他のところが再掲という形に説明がしにくいところがあると感じました。このように、プランを構成している中で、この順番にかえさせていただきました。この図を見たときに、私たちも1 が一番上にあるのが一番いいなと思って作ったのですけれど、この冊子の基本施策や事業などを順番に書いていく中で今こういう形にさせていただきました。流れとしてはこの方がよいと思うので、わかりやすくなるような工夫をしていきたいと思っています。あとは市民全員がこの冊子の内容を理解するということについて、当然ですけどプランの冊子を市民全戸配布するものではないので、これを全て理解してもらうことは難しいと思います。全市民の方には策定が終わった後に、全戸配布する広報菊川に掲載する予定です。あとはわかりやすいものとして、概要版を配って、施策の内容などを説明していきたいと思っています。皆様に触れるところなので、わかりやすい部分を抜粋して作ってしていきたいと思っています。このプランは学校や各自治会などに配るので、全てが完璧にはならないかもしれませんが、先ほどの御指摘を受けて、私たちもなかなか説明がつかない部分があってそのままではいけないなというところも感じましたので、直せる部分や分かりやすくできる部分は、もう一通り見直していきたいと思っています。

【委員】最初に男女共同参画プランをつくったときは、まず「気づき」から始めようと始めました。今まで気づけなかった当たり前だったことを、「こんなことはおかしい」などと「気づき」から始めましょうということで、ダイジェスト版をつくりました。それに委員が関わっています。しかし、ダイジェスト版を作るには「ジェンダー」が出てくるし、冊子自体を読む人はほとんどいない。ダイジェスト版は、全戸配布して、どうやったら読んでもらえるかと考えました。そして、知っている人を載せようこの表紙になりました。前はそういう点から始めて、ダイジェスト版をすごく検討して作りました。今回、ダイジェスト版の案が

ないですから、わかりやすくという形でやりたいのですが、ダイジェスト版をどれだけシンプルに伝えるように作れるかっていうのを本来は私たちがやらなければならないですけど、今回提示がないのでそれができなかったという形です。

【事務局】今年度のプラン策定が今年度あってそこが終わって、今年度中の中で全てっていうとなかなかうまく伝えるところまでできない部分があると思ったので、概要版の冊子については、検討していきます。

【委員】プランができたなら、市民に発表しますよね。そのときにダイジェスト版がなければ説明がつかないと思います。第2次、第3次もそうだけど全部ダイジェストと本紙の両方作っているはずですね。それをもし分けるなら、もっとわかりやすくしてくださいというふうになっている。

【事務局】3月の完成のときにはそれも把握して、提示できるような準備を進めていきたいと思います。冊子としての発行にはもう少し見直しに時間かけて来年度の頭に作るも案として検討を進めているところです。

【委員】今までに委員やられた方が、挿絵について、男の人も洗っているなど、こういうのも細かくやっていました。使うのはダイジェスト版ではないかと思えます。